

安心できる出産へ
医師増員など望む

産婦人科医

1/4 Y 谷口 二郎 59
(宮崎市)

産婦人科医の友人や知人から今年もたくさんのお祝い状をいただいた。あいさつに添えられたコメントを読むと、「そろそろ分娩の取り扱いをやめたい」という内容が多かった。

すでに分娩を扱わなくなった産婦人科医も増えていくが、その理由はさまざまだ。「24時間休みなしで、体力的に続けていけない」というのが一番多い。「後継ぎがない」「助産師の確保が難しい」「母親や新生児が死亡した場合、刑事責任を追及される恐れがある」といったものもある。今、安心して出産できる場所がないという「お産難

民」が急増している。あと数年もすれば、分娩を扱う医療機関は半分近くに減るのではないだろうか。待ったなしの状況だ。医師増員などの対策を急ぐよう国にお願いしたい。